



モザンビーク共和国

マップ

2014年8月～ 2017年3月滞在
(2018年記)

子どもの年齢

長女:13歳～15歳 インター校

次女:11歳～13歳 インター校

基本情報

気温	夏は雨季で気温、湿度ともに高く、暑い日は40度くらいまで上がる 冬は乾季で朝晩冷えるが、日中は爽やかで暖かく、カラッとした日本の初夏のような陽気になる
緊急電話	在モザンビーク日本国大使館 ☎21-499819～20
電圧	220V 変圧器が必要
水	外国人は基本的に飲料用水を購入しているが、野菜の洗浄や歯磨きに水道水を使う分には問題ない

買い物

日本の物	日本の食材は野菜も含め殆ど手に入らない 市内に1軒ある小さな輸入食材店で米(1kg単位)、味噌、醤油などが一応買える 調味料や乾物を日本から持ち込む人が多い
食料品	牛と鶏のひき肉はあるが、豚はない(肉屋で挽いてもらうことは可能) 不定期にしめじ、大根、白菜がスーパーや市場で手に入ることがある 南アフリカのスーパーが進出しており、一通りの食材(肉、野菜、乳製品、日用品)が揃う ただし生乳は1箇所のスーパーで決まった曜日にしか入荷されず、基本的にはロングライフ牛乳を飲む 魚市場があり、新鮮な魚介類が買える 夏はマンゴーなど、果物が美味しい
日用雑貨	質はあまり良くないものが多い コンタクト洗浄液は無い 歯ブラシはヘッドが大きいので日本から持参すると良い シャンプー、石鹸、歯磨き粉、洗剤、生理用品、トイレトペーパーは南アフリカからの輸入品があり、日本と同等とはいかなくとも、特に問題なく使える(ヨーロッパと同品質)
学用品	最低限のものは揃う 車で4時間ほどの南アフリカの街・ネルスプリットに買いに行ける
衣類	子供服は最低限揃うが、スポーツ用品等は隣国に買いに行く 大人の衣類は質・サイズ・種類ともに日本人にとっては不十分のため、なるべく買わないで済むよう日本から持っていくのが良い

交通

公共交通	基本的には無い タクシーは利用可能だが、メーターが無いので、乗る前に行き先を伝え値段を確認する 地元の人が利用するバスは危険なため、外国人は乗らない方が良いと言われている
運転免許	外交官は日本の免許証の翻訳版を携帯することで運転可能だが、それ以外の場合は難しい

ドライバーは非常に安く雇えるので、会社や個人で雇うことも可能
南アフリカでは国際免許証で運転ができるので、旅行用に日本で取得してくると良い

住居

住宅事情	数年前は地価が高騰し住宅事情が非常に悪かったが、近年は落ち着いてきて、次々に建つ新築のアパートに入居する人が多い 新築でも水が出ない、水漏れ、自家発電機がなく停電時に困る等のトラブルは日常茶飯事と聞く 停電になることが多いので、1軒家を選ぶ場合は自家発電機を備えた物件を探すと良い
日本人が多く住むエリア	街の中心のポラナショッピングセンター付近にはレストランや商店が徒歩圏内にあり、単身の日本人には住みやすい場所となっている 中心地から数キロ離れた大使館が立ち並ぶ付近は一軒家が多く、各国の学校もあるため、家族連れの外国人が多く住んでおり、日本人にとっても住みやすい環境
使用人	日本人数名でシェアし、週何日という単位で雇っている人もいる 日本人同士で紹介しあって見つけることが多い 公用語はポルトガル語なので英語ができる人は少ない
治安 セキュリティ	良いとは言えないが、凶悪犯罪は少ない 警察官への信頼は低く、外国人相手に小遣い稼ぎに難癖つけてくるなど、狙われやすいので注意 金品目当ての強盗、スリ、ひったくりがほとんどのため、夜道は出歩かない、荷物は肌身離さず持つ、車に乗っている時は窓や鍵は閉める等、日常生活での注意を怠らない マンションや1軒家が集まるコンパウンドの入り口には必ずガードマンがいるが、あまり信頼してはいけない ガードマンが強盗とグルになっている場合もあると聞くので、家を長期留守にする時は貴重品をなるべく置いていかないようにする 着飾って出かける場所もあまりないので、宝飾品等の貴重品はなるべく日本に置いていくことをお勧めする

教育

通った学校	市内のイギリス系インターナショナルスクール 市内のアメリカンスクール
通った学校の 詳細	インター校はケンブリッジ方式を採用 生徒の国籍は多様だが、モザンビーク人やブラジル人が多い印象 場所は市の中心で便利だが校舎は狭い アメリカンスクールはIBカリキュラムを採用 英語圏の生徒が多く、外交官の子女が多い 海沿いで、中心地からは離れた場所にあるが校舎はとても広く設備が整っている どちらの学校も高学年になるに従って生徒数が減る傾向にある
塾 家庭教師	全くない 通信教育やスカイプを利用したサービスがあるがオンラインは時差の問題もある 英語を教えてくれる人(家庭教師)を探すのが非常に難しい

習い事	テニス、乗馬、ポルトガル語会話、バレエ(幼児)
アドバイス	子供が安心して遊べる環境が少なく、習い事もほとんど無いため、放課後の過ごし方が大きな悩みの種です。家で遊ぶことが多いので、友達とのコミュニケーションツールとしてゲーム機を買ってくる人も多くいます。日本語の放送を観られるチャンネルは無いので日本で番組を撮り溜めて持ってくる人もいますが、インターネット環境は比較的整っていて、ネットを駆使することで情報や娯楽の不足はある程度補えます。

病院

医療事情	南アフリカ資本の Hospital Privado は総合病院で、衛生面、治療面で普通の症状なら信頼でき、英語も通じる 評判の良い歯医者がなく、皆、苦勞している 車で4時間くらいの南アフリカ国境付近の街ネルスプリットに病院が幾つかあり、気になる症状の時はそちらまで受診に行く方が安心な場合もある 出産は薦められないが妊娠中の検診は受けている日本人もいる 最低限の医療は受けられる
日本人医師	なし
薬品	マラリアの検査キットや薬はあるが、一般的な薬は管理状態が悪いと言われているので注意

交流

日本人	家族を帯同している世帯は20世帯前後 小学生以下の子供が多い(10世帯前後)
現地の人	生活圏が違うため、あまり知り合う機会はない
駐在外国人	外交官や政府関係機関勤務の家族が多い 子供の学校生活を通して知り合うことはあるが、習い事や出歩く機会が少ないため、出会うきっかけは多くはない

伝えたいこと

項目ごとにまとめてみると、あまり楽観的情報がないことに気がつきました。

しかし生活の実感としてはそんなに辛かった印象はなく、皆でいつも話すのは「なんとかなるものね」ということです。

日本と比べてしまうと不足だらけ、不便だらけのように感じますが、無い故に諦めがついたり、そもそも求めなくなったりと、案外適応できるものだなということを実感しました。また、日本人は少ないですが、人数的に気軽に集まりやすく、皆さんの知恵や情報で生活の悩みを解決できたり、苦勞を共有したりすることで、小さな工夫や発見が喜びとなり、楽しくもありました。

世界最貧国の一つであるモザンビークもここ数年、道路の敷設が進み、新たなアパートやショッピングモールが次々完成するなど発展は目覚ましいです。医療と教育面では自力で解決しないといけない部分は依然多く、抱えている事情によっては駐在をお勧めできないこともあります。それを除けば、住めば都。期待値が低い分、「思いの外大丈夫だった、良かった」と思うことも多く、旅行では決して味わえない世界を体験するチャンスでもあります。

駐在を検討されている方がこの情報を見て「行ってみようか」と少しでも前向きに考える材料になれば嬉しいです。